

宮崎県拠点の
Webサイトは
こちらから



宮崎県拠点だより

事例紹介
ファイル #16

「有機農業の日」
12月8日は
オーガニックデイ



有限会社 豊緑園
代表取締役の森本健太郎さん



ミミズもいる元気な土



茶と和菓子などの販売店舗

持続可能な農業に向かって！

「有機農業の推進に関する法律」が成立してから10周年を記念し、2016年に、12月8日が「有機農業の日（オーガニックデイ）」として制定されました。

有機農業とは、化学肥料や化学農薬を原則使わず、可能な限り環境に配慮した栽培方法で、土壤環境や生物の多様性など農業生態系を守ることにつながります。



有機農業事例1

●有限会社 豊緑園

豊緑園(新富町)は、点在する8か所のすべての茶畠で有機JAS認証を取得し、「ゆたかみどり」をはじめ8種類の品種を生産しています。茶葉の乾燥・加工や小売販売もほとんど自社で行っています。

収穫した茶葉は、洗わずに蒸す・揉む・乾燥の過程を経て製茶に加工。安心して、美味しいお茶を飲んでほしいとの思いから、約30年前に有機栽培へと切り替えました。

化学的に合成された肥料及び農薬を、3年以上使用しないで栽培するため、茶畠やその周りでは、草花や虫たちが共生しています。

手間暇はかかりますが、土づくりや管理作業を徹底し、自然の循環・環境を利用して、農薬を使わないお茶づくりに向き合っています。特に茶畠に生える草とりは、自分たちの手で時間をかけて行い、初夏から秋にかけては、暑さとの闘いで大変な作業になります。地道な作業を徹底しながら生産、販路も拡大し輸出の取引も年々増えています。

また、5年前から自社で加工した茶や和菓子を販売する店舗も経営し、次世代に繋がっていく農業として、対面で多くの人に有機農業の良さをPRしています。

我が国の有機農業の現状

- 日本の有機農業の取組面積は、10年で69%増加 (H25:2.04万ha→R5:3.45万ha)、特に有機JAS認証取得農地は、10年で120%増加 (H25:0.99万ha→R5:2.18万ha)
- 茶畠で有機JAS面積の伸びの大きい県 (R4年度→R5年度)
1位 鹿児島県175ha、2位 宮崎県60ha



農林水産省HP

有機農業事例2

● 合同会社オーガニックファームZERO



合同会社オーガニックファームZERO
代表の宮本恒一郎さん（右）

宮崎県拠点WEBサイト
「いき活き！宮崎の農業者」
で紹介しています。

合同会社オーガニックファームZERO（新富町）は、慣行栽培を30年ほど続けた後、食への関心が高まるなか、消費者に安心して選んでもらえる農業、環境に配慮した農業で、次の世代に引き継ぐことが出来る持続可能な有機栽培を始めました。

当初は、除草作業・肥培管理・病虫害対策が大変で何度も失敗しくじけそうになりましたが、「この道を決してあきらめない」との思いで、有機栽培農産物を待ってくれている人達のために種を撒き続け、2008年に有機JAS認証を取得しました。

また、有機農産物に関心がある消費者や新たに有機栽培に取り組む農家に、その魅力を伝える情報発信基地にしたいと「有機米農家おにぎり宮本」を開店。今後は、キッチンカーでも有機米おにぎりの販売を行い、有機米の認知度向上と普及・拡大を目指します。

拠点のうさぎ

● 11月6日

環境負荷低減に取り組むユリ栽培農家と意見交換を行いました。

日向市の(有)児玉園芸では、1.2haのハウスで、主にオリエンタルユリを年間50万本生産し、遠くは北海道まで出荷しています。

意見交換では、数年前の新型コロナウイルスの影響による販売不振は乗り越えたものの、円安による輸入球根の価格高騰など厳しい経営環境が続く中で、ヒートポンプの導入やバーク堆肥の使用による環境負荷低減と収益向上に取り組み、地域の中心的な経営体として地域の農業を守っていきたい、との意見が出されました。

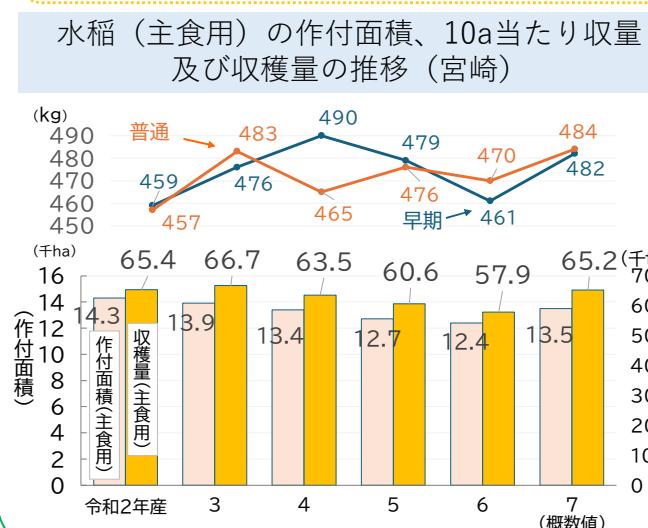


出荷直前のオリエンタルユリ

児玉代表取締役（左）と菊池地方参事官

データで見る宮崎の水稻 !!

● 宮崎県における令和7年産主食用米の予想収穫量（10月25日現在）は65,200tで、前年産に比べ7,300t増加すると見込まれます。これは、作付面積（主食用）が13,500haで、前年産に比べ1,100ha増加と見込まれることに加え、10a当たり予想収量が483kgと前年産に比べ16kg増加すると見込まれるためです。なお、作柄表示地帯別の10a当たり予想収量は右下図のとおりです。



10a当たり予想収量（作柄表示地帯別）
(生産者が使用しているふるい目幅1.8mmベース)

宮崎県		
合計	483kg	103%
早期	482kg	105%
普通	484kg	103%

西北山間
普通 445kg 103%

広域沿海
合計 471kg 104%
早期 482kg 105%
普通 446kg 102%

広域霧島
普通 508kg 103%

作柄表示地帯
10a当たり予想収量、対前年比

資料：農林水産省「令和7年産水稻の作付面積及び10月25日現在の予想収穫量」

● 本紙の記載内容や農政についてのご質問、ご意見等お気軽にお問い合わせ下さい。

● 宮崎県拠点 地方参事官室

TEL 0985-24-2365

〒880-0801 宮崎市老松2丁目3-17

編集後記

2025年も残り1ヶ月。皆様どんな1年だったでしょうか。原材料費・人件費・物流・天候不順などの影響からか、物価が高く推移した1年となりました。

来年は、もっと良い年になることを願いながら、新年を迎える準備で慌ただしく気持ちも急くこの時期だからこそ、ちょっと一息、日本茶を飲んで心を落ち着かせたいものです。（m/）